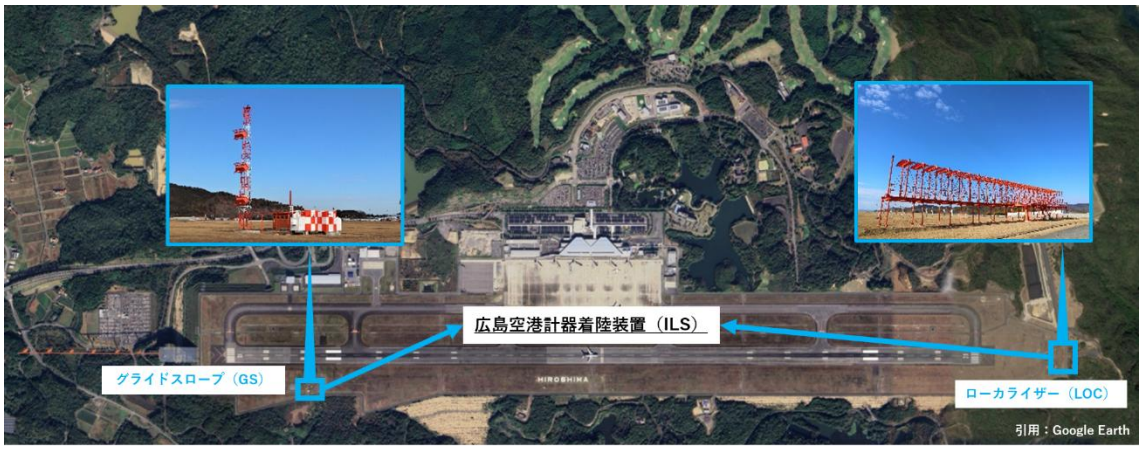
CAT-Ⅲ運航について



Ｇ　Ｓ：航空機がスムーズに滑走路に着陸できるよう、安全に降りられる角度を電波で発信する装置。
ＬＯＣ：航空機に水平方向の誘導を指示する電波を発信する装置。
ＩＬＳ：Instrument Landing System(計器着陸装置)　GS や LOC 等で構成される無線着陸援助装置の総称。

■CAT-Ⅲ運航とは

広島空港は標高が 330ｍと高く霧の発生確率が高い空港ですが、霧などの悪天候による視界不良時においても安全に滑走路まで誘導する無線着陸援助装置が設置されています。

より安全な着陸のためには滑走路の正確な方向、進入下降角度および進入コース上の位置を指示する無線着陸援助装置である「ILS」(※1)が必要となります。ILS を使用して着陸する場合、それぞれのカテゴリーに応じた RVR（※２）や決心高（※３）が決められており、カテゴリー（CAT）の数字が大きくなるほど高い安全性を有していると言えます。

カテゴリーにはⅠ～Ⅲの３種類があり、広島空港では CAT-Ⅲが運用されているため、RVR が 100 メートル以上あれば、自動操縦によって精密進入着陸を安全に行うことができます。なお、カテゴリーⅢの運航にあたっては、航空保安無線施設のほかに、航空灯火施設、RVR 機器及び電源がカテゴリーⅢ運航に供することができる状態かつ、航空機の装備、パイロットの資格が整っている必要があります。また、空港設備の状態により、離陸の条件にも影響を与えます。

※1 ＩＬＳ：Instrument Landing System(計器着陸装置)
GS や LOC 等で構成される無線着陸援助装置の総称。
※2 ＲＶＲ：Runway Visual Range（滑走路視距離)パイロットが滑走路を見通すことの可能な最大距離。
※3 決心高：着陸しようとする航空機が進入継続の可否を判断する高さ。その高さで滑走路等が見えなければ着陸をやり直すことになります。

出典：国土交通省ウェブサイト（https://www.mlit.go.jp/koku/content/002013001.pdf）
※対象ページについては、「18 ILS 進入」です。